

新しく生まれ変わったステージで歌や踊りを披露！ 第24回高齢者ふれあい演芸会

2月21日、高齢者ふれあい演芸会(熊石老人クラブ連合会主催)が、八雲町ふれあい交流センターくまいし館で開催され、熊石地域の老人クラブ会員、八雲町老人クラブ連合会員のほか、応援出演として熊石保育園と相沼保育園の年長組園児など約300名が参加しました。

毎年、熊石地域の高齢者が自ら企画し、参加する手づくりの演芸会で、この日は趣向を凝らした踊りや歌など26演目が真新しいステージで披露され、参加者は楽しく、和やかな一日を過ごしました。



熊石の魅力を若者の視点で！ 熊石地域活性化 プロジェクト協議会

熊石地域では、札幌大谷大学社会学部と地域住民が協力し、はまなす財団(札幌市)の支援を受け、熊石地域の活性化に取り組んでいます。3月3日に熊石総合支所で、熊石地域活性化プロジェクト協議会が開催され、札幌大谷大学の学生たちから植杉副町長へ熊石地域活性化のための提案書が手渡されました。学生たちが昨年8月に実施した地域住民への調査を基に、地域の魅力や資源価値を分析し、地域活性化に向けた提案としてまとめたもので、校舎を利用した道の駅の設置や、温泉や海洋深層水の利用のほか、マリンツーリズムによる都市との交流などのアイデアが盛り込まれています。



ロコモ防止は、歩くことから！ 歩ける体づくりセミナー

2月22日、八雲町ふれあい交流センターくまいし館で、足腰に不安を抱える方や、健康づくりに興味がある方を対象に、歩ける体づくりセミナー(八雲町教育委員会主催)が開かれ、町民20名が参加しました。加齢や生活習慣による骨や関節、筋肉などの衰えや障害によって介護が必要になる可能性の高い状態をロコモティブシンドローム(運動器症候群、ロコモ)といい、近年では新しい国民病とも言われています。今回は、日本ノルディックウォーキング学校専務理事の藤田隆明氏を招き、冬場の体力づくりやポールを使ったストレッチについての講義のほか、正しいウォーキングの姿勢や歩き方の講習を行いました。



全ての恵みに感謝し、豊漁と安全を祈る！ 山海鳥獣魚族供養

山や海などの生き物への供養と感謝の気持ちを込めた「山海鳥獣魚族供養法要」(山海鳥獣魚族供養法要奉賛会主催)が3月6日、熊石根崎町の法蔵寺で営まれ、290年余りに前に建立された供養塔に熊石地域の漁業者やハンターら約20人が手を合わせ、一年間の豊漁や無事を祈りました。

ホッケの名前の由来にまつわる伝説が残る、この供養塔が建てられたのは江戸時代中期の1721年(享保6年)。道内におけるこの種の供養塔のなかでは最古のものであり、北海道の村落形成、経済、生活文化を知るための貴重な遺産として、1985年(昭和60年)3月30日に道有形文化財に指定されています。

